

ほんべつ



いいひと いいまち いきいき ほんべつ

2 春交通安全

4 第52回本別山溪つつじ祭り
本別町町民植樹祭

6 水道工事・下水道工事にご協力を

8 どう活かす地域ブランド

10 第25年次本別・南二陸
ふるさと交流研修会

12 本別町地域公共交通活性化協議会を発足
いざよい会
国民年金コーナー

14 第六次本別町総合計画
Part12

16 オーストラリアミッチェル訪問団が来町
姉妹都市

17 新型インフルエンザ

知っておこう

- ハロー！仙美里中学校……………15
- マイタウン……………18
- みんなの健康・銀河ホットライン……………20
- ご寄付ありがとうございました……………21
- 本のある暮らし・わたしたちのまち……………22



希望を胸に

本別高等学校に、希望を胸にした69人（男子30人・女子39人）の新入生が入学。これから3年間、目標を持って色々なことにトライしてください。

春 交通安全

気温が上がり、雪も解け、
家族や友人と
旅行や観光に出掛ける機会が増える
季節となりました。
それと同時に、
車の運転に少し慣れた新社会人や
友だちとの通学が楽しくなってきた
小学1年生が、
活動を開始する時期でもあります。
そんな気が緩みがちになる
時期に合わせて、
町内各地で
悲惨な交通事故を防ぐための
様々な取り組みが
行われました。

平成二十一年の道内での交通事故死者総数は、
減少傾向にあるものの、愛知県に次ぐ二番目に多
い二百十八人（前年比△十人）となっています。
そういった中、昨年は全国各地での交通安全の
取り組みなどが実を結び、全国の交通事故死者数
が昭和二十七年以来五十七年ぶりに四千人台にな
りました。
道内では過去三年間の統計から、四月以降に交
通事故による死亡者が増加する傾向があるため、
これからの季節に注意が必要です。
交通事故は、いつ自分が被害者や加害者になる
かわかりません。悲惨な交通事故から大切な命を
守るため、運転者と歩行者の両方が気を引き締め、
交通事故に遭わない楽しい毎日を送りましょう。

交通安全 街頭啓発

安全運転をお願いします

四月六日から四月十五日まで
の「春の全国交通安全運動」に
合わせた交通安全街頭啓発が町
内で実施されました。

各団体は国道沿いで、道行く
ドライバーに「安全運転啓発チ
ラシ」や「ティッシュ」「ガム」
などを手渡ししながら、安全運転
を訴えました。



4/7 北海道警友会本別支部
(木田弘支部長)



4/8 本別ライオンズクラブ
(朝日基光会長)



4/14 本別建友会
(三木哲会長)

新入学児童を 交通事故から守るキャンペーン

新一年生に「三つの約束」

本別町交通安全母の会（田西喜代
会長）による、新一年生を対象とし
た「新入学児童を交通事故から守る
キャンペーン」が、町内の三小学校
で実施されました。

同会の会員は、子供たちに手作りの
交通安全マスコットや夜光反射材
などを手渡し交通安全を呼び掛け、
同行した本別警察署員は、①道路で
遊ばない②車道に急に飛び出さない
③横断歩道を渡る時は左右を確認
するの「三つの約束」をしましよ
うと話し、子供たちは真剣な眼差しで
話を聞いていました。



4/12 勇足小学校



4/9 本別中央小学校



4/12 仙美里小学校

登校時の 交通安全 キャンペーン

気を付けていってらっしゃい

交通安全指導員会（泉野健会長）が
中心となった、登校時の交通安全キ
ャンペーンが4月12日、町内5か所で実
施されました。

同会の会員や本別警察署員、地域交
通安全推進委員らは、「おはようござ
います」と元気よくあいさつする子供
たちに、ティッシュを配りながら、
「気を付けていってらっしゃい」など
と声を掛けていました。



つっじ祭り

5月9日(日)

午前10時から

義経の里本別公園



第五十二回本別山溪つっじまつり(実行委員会主催)が五月九日、本別公園で開催されます。今年も子供たちに大人気のふわふわランドのほか、お笑いステージやジャンボ義経鍋など、盛りだくさんの催しで皆さんをお待ちしています。一万六〇〇株のエゾムラサキツツジと二〇〇〇本のエゾヤマザクラが咲き誇る本別公園で楽しいひとときを過ごしませんか。



主な催し物

- ◇にじます放流・釣り
- ◇ブルーベリー苗無料配布
- ◇ジャンボ義経鍋
- ◇ふわふわランド
- ◇ゲーム大会
- ◇モデル撮影会
- ◇牛乳無料配布

◇姉妹都市オーストラリア・ミッチェルコーナー

- 森林火災被害からの復興
- ミッチェル特産品等の販売



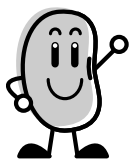
すびっぴ
お笑いライブステージ
午後0時45分



お問い合わせ

実行委員会事務局 企画振興課商工観光・元気まち担当

☎22-18121



ニトリ北海道応援基金 本別町町民植樹祭 を開催します

町では、ニトリ北海道応援基金の助成を受け「豊かな水を育み、快適な生活環境を確保する森林機能の啓もう」と「緑豊かな自然の拡大」および景観にも配慮した「本別町桜ともみじの山」を造成するために、次の通り「町民植樹祭」を開催します。
多くの皆さんの参加をお待ちしています。

5月25日(火)
午前10時～午前11時30分

☆ところ
新生

※入口に看板を設置します

☆集合場所

役場玄関前(南側)

※午前9時20分にバスを運行します

※直接、植樹祭会場に行かれる人は午前10時までにお越しください



☆植栽内容

さくら 六十六本
もみじ 四十二本

マツ(スーパードール) 七百本

※スーパードール:グイマツとカラマツを交配させて生まれた、材の強度と幹の直通性に優れているマツ

☆申し込み

5月14日(金)まで

☆その他

参加に当たっては、スコップ、軍手、長靴等をご用意ください。

☆申し込みおよび問い合わせ

農林課林務・耕地整備担当

☎22-18126

水道工事・下水道工事にぜひ協力を

今年度も水道工事・下水道工事計画図の通り行います。水道工事の際には、一時断水や多量の水が濁ったりする場合があります。下水道工事では、個所によっては工法上、作業中に車両通行止めなどの場所も出るため、回りの案内標識をご確認の上、通行をお願いいたします。皆さんにはご不便をお掛けしますが、ご協力をお願いします。

下水道の普及状況は

町公共下水道は皆さんの温かいご理解で、平成三年三月末に供用を開始した後も順調に進み、二二年度末で整備面積が二六九・三〇（事業認可面積三五七・〇中）管きよ（下水道の埋設）の総延長は五〇・七kmとなりました。二二年度の水洗化など（トイレ、台所、風呂）の状況は、改造工事および新築による接続を合わせて四〇件（個人、法人、団体すべてを含む）、これまでの累計で二、四六五件となり、水洗化率は八七・〇％となりました。

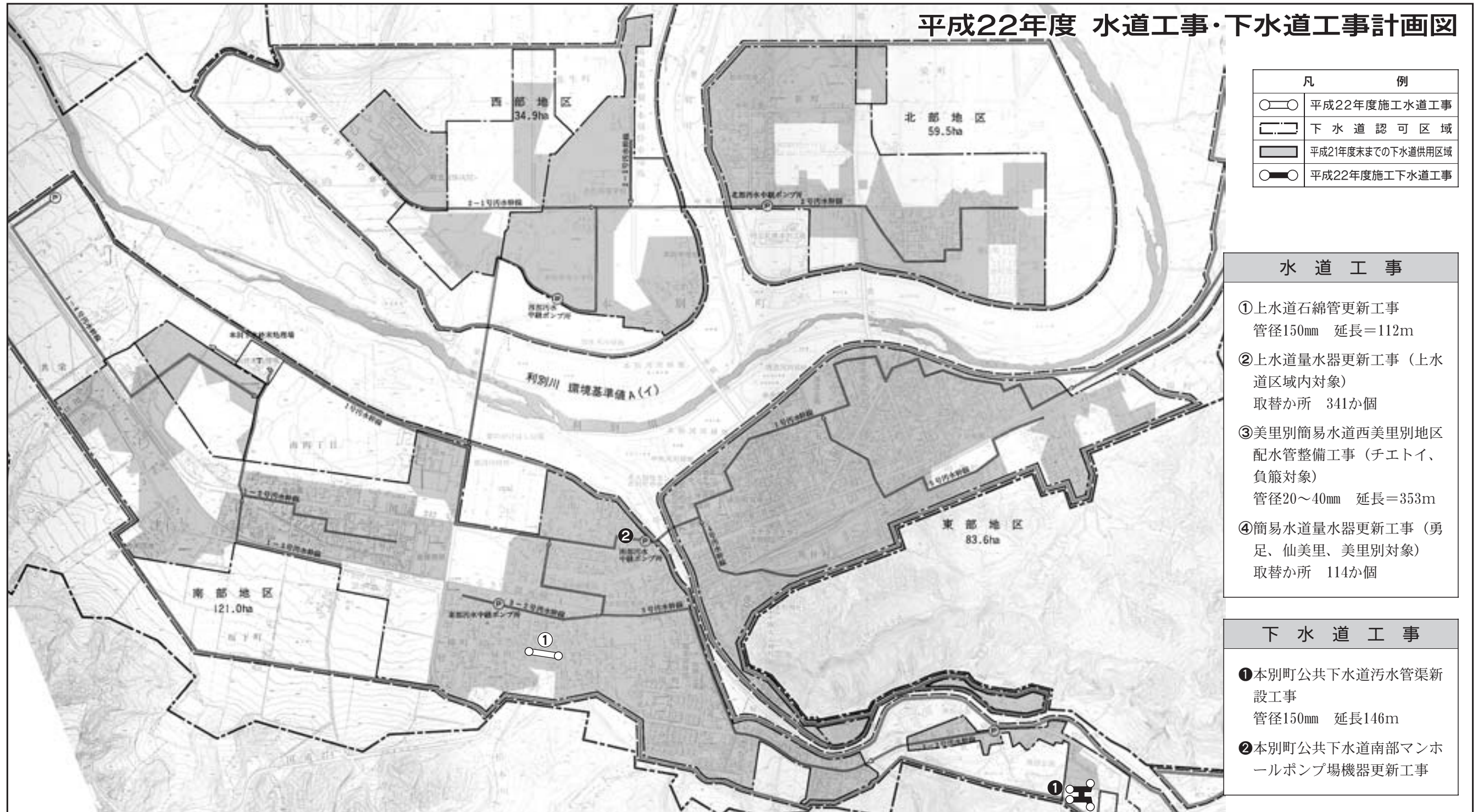
水洗化改造工事に融資・補助制度があります

融資あっせん制度は融資額の上限が六〇万円。自己資金で工事を行った人への補助金の上限は六万円となっています（供用後三年以内に工事をされた場合）。三年を過ぎてから工事を行った場合は、一年経過ごとに上限の額が少しずつ低くなり、補助については五年で打ち切りとなります。

工事の申し込みは町の指定業者へ

給水装置の新設、改造、修繕、撤去などの水道工事や水洗化改造工事を行うときは、町が指定した指定工事業者へ工事の申し込みをしてください。指定工事業者が建設水道課へ必要な手続きや、水洗化工事における融資あっせん制度、補助金制度の手続きを取り、工事を行います。

平成22年度 水道工事・下水道工事計画図



問い合わせ

建設水道課

水道・下水道担当

☎22-18122

どう活かす 地域ブランド

地域独自の資源を活用したブランド化から、地域の自立と経済の活性化を考える「本別産農産物を活かした地域ブランド講演会」が3月26日、道の駅「ステラ★ほんべつ」で開かれました。

講演会では、商品開発などを展開するNAC商品開発研究所の中田哲夫代表と本別ブランド「キレイマメ」のパッケージデザインに携わる武蔵野美術大学造形学部基礎デザイン学科宮島慎吾教授が講師となり、中田代表が商品の開発と販売戦略について、宮島教授がブランド作りのノウハウについてを紹介。

会場には生産者や消費者、食品加工業者など約60人が訪れ、真剣な眼差しで話に耳を傾けました。



「本別産農産物のマーケティングを考える」

NAC商品開発研究所

代表取締役 中田 哲夫 さん

気付きと粘り



商品開発を手掛けて約三十年になる中田代表は、本別ブランド「キレイマメ」のように商品開発未経験者の行政と生産者、企業がチームを組み商品開発に取り組むケースは全国的に珍しいと述べ、「しがらみがない素人ほど良い品を作る」と説明。また、良い商品の開発には「気

付きと粘り強く研究すること」が重要であると強調しました。今後は、健康志向へのこだわりから、農産物への期待が特に大きくなってきていることから、「本別産の豆、味噌を使ったレシビと豆カレーの開発を進めてほしい」と話しました。

「食ブランドづくりを考える」

武蔵野美術大学

造形学部基礎デザイン学科

主任教授 宮島 慎吾 さん

キレイマメから キレイマチへ

黒豆を使った本別ブランド「キレイマメ」の立ち上げ当初から、同ブランドのデザインや新商品開発に携わる宮島教授は、「キレイマメ」が出来上がるまでのプロセスを説明。その中で、三つの候補から選んだブランド名「キレイマメ」が、黒豆の持つ解毒作用で内側からキレイになる意味を持ち、独身女性をターゲットにしていることなどに触れたほか、小豆を使った赤シリーズの「キレイマメ」も展開していきたいと今後の展望についても話しました。

最後に、「キレイマメの知名度が上がればまちに多くの人が訪れるようになる。それが観光に結びつき、さらには地域の活性化へとつながる。商品のブランド化から地域全体のブランド化を目指し、キレイマメを使った人を呼び込むキレイマチへと発展させましょう」と、エールを送りました。



第25年次本別・南三陸

ふるさと交流研修会

三月二十六日(金)からの四日間、中央公民館を中心にふるさと交流研修会が実施されました。この研修会は今年で二十五回目。夏は本別町から宮城県南三陸町へ、春は南三陸町から本別町へと少年活動のリーダーを目指す中学生(ジュニアリーダー)が、その地域でその季節でしかできない活動を通じて、忍耐力や協調性を学びながら交流を深めています。今年もジュニアリーダー団体「南三陸ボランテアサークルぶらんこ」から精鋭七人が来町。本別町からは本別ボランテアクラブかめを中心に二十五人の中学生が参加。道立足寄少年自然の家に宿泊しながら、本別町、足寄町、上土幌町での様々な体験活動を通して楽しい交流ができました。



3月26日(金)



▼町長表敬訪問
いつも元気な南三陸町のジュニアリーダー七人が来町!



▼開会式
本別町は二十五人の中学生が参加しました。



▼夕食交流会
市街地婦人会のみなさんにカレーライスを作っていたいただきました。おいしくて、何杯もおかわりしていました。

3月27日(土)



▼クロスカントリースキー
上土幌町十勝三股でのクロスカントリースキー。積雪量、雪質も抜群のコンディション。転びまくって大騒ぎでした。



▼もちつき交流会
もちつき保存会十五夜会の協力によるもちつき交流会。つくしたてのおもちで作るお雑煮や、あんこちは格別においしいです。



▼雪中レクリエーション
本別ボランテアクラブかめ中一会員の企画による雪中レク。まだまだみんな元気!

3月28日(日)



▼ひまわり牧場訪問
今年もひまわり迷路で有名な「ひまわり牧場」に伺いました。ジュースやお菓子ごちそうさまでした。



▼焼肉交流会
夕食はビーフハウスで恒例の「焼肉交流会」。シンキスカンなどのほか、今回も町民からシカ肉の差し入れがあり、とてもおいしくいただきました。



▼キャンプファイア
幻想的な雪の中のキャンプファイアは、この研修会で最大のイベントです。気温は低かたですが、みんなの熱気で半そでになり、レクリエーションで盛り上がりました。

3月29日(月) 最終日



▼閉会式
涙の閉会式。この時の涙が今回の交流会がどれだけ充実したものだったかを物語っています。本別町からは色紙のプレゼント。南三陸からは旗をプレゼントされました。



▼お別れ式
南三陸町のジュニアリーダーたちは再会を誓ったあと、楽しかった思い出を胸に本別町をあとにしました。



参加者からの感想を一部紹介します

- 今年较去年よりも、自分はJLとしてまだまだなんだなと思いました。(本別団中3)
- ぶらんこのみんなは初めから恥ずかしさを捨ててはっちゃけてすごいいました。自分はまだ恥ずかしさがあって、なかなか前に出れなくていつになったら恥ずかしさを捨てるんだろうと思うけど、またみんなに会うときは絶対に恥ずかしさを捨てて会いたいと思います。(本別団中2)
- 汗ならだれでも簡単にかける。字ならだれでも簡単にかける。でも恥は簡単にかけるもんじゃないよね。でも「ちょっとした勇気」が自分を変えてくれる。人間としてもJLとしても成長させてくれたよ。俺の現役最後の研修会がこの研修でよかった。みんなと友達になれたからみんなと一緒に騒げたからみんなと一緒に涙流せたから。みんなと会えたこの4日間は俺の宝物です。(宮城団高2)

※JL=ジュニアリーダー

「してみせて」の研修会

大人は手を出しません。失敗してもいいから我慢して手を出しません。失敗したらなぜ失敗したのか一緒に考えてみます。何が良かったのか話し合ってみます。もちろんうまくいったときも、どんなところが良かったのか振り返りをします。答えは自分で導き出せるように、大人は少しだけヒントを与えます。

今回も事業を担当するにあたり「見守り」に徹して「見守り」を考えました。しかし手を出したところも正直ありましたが、中学生のみんなはいろいろなチャレンジをして、一所懸命に取り組んでいました。当然、その頑張りにも私たちが引率者も閉会式でいつも涙してしまいます。「してみせて、話して、聞かせて、させてみて、ほめてやらねば、人は育たぬ」の理念の下、これからもたくさんさんの経験を通して、チャレンジする精神を育んでいきたいと私たちは考えます。

社会教育課社会教育担当

本別町地域公共交通 活性化協議会を発足

通勤や通学、高齢者の通院等、住民生活に不可欠な公共交通を町民の利便性やニーズを踏まえ、有効かつ効率的な公共交通手段の確保等の調査検討を行うため、本別町地域公共交通活性化協議会が三月二十三日役場三階会議室で行われました。

同協議会は、国の地域公共交通活性化・再生法（平成十九年十月施行）に基づき発足され、町と公共交通事業者、帯広運輸支局、十勝総合振興局や利用者団体などの代表者で構成されており、会長となった高橋正夫町長からは「交通のネットワークを密につなげていきたい。協力をお願いしたい」とあいさつがありました。

今年度は、現況交通実態調査、



利用者ニーズ把握調査、試験運行による調査など、町民アンケートやデマンド型交通の試験運行を行うほか、町営および民間バスの路線や運行の再編の検討を行い、本別町公共交通総合連携計画を策定する予定です。

※デマンド型交通
利用者から事前に電話などで申し込みを受け、利用者の希望時間、目的などに応じて運行する交通サービス

町民医療講座「いざよい会」が四月十五日、町総合ケアセンターで開催され、町国保病院竹本尚文内科医長が「アメリカ臨床留身体験記」と題して講演しました。



いざよい会

アメリカ臨床留身体験記

竹本先生は、アメリカの医療、保険制度など、自身が体験したアメリカでの生活について写真を使いながら紹介しました。

その中で、アメリカの医師免許は、最新の試験を受けて合格しないと免許が更新されず、自身が持っている家庭医の免許は七年ごとの更新で、二〇一六年に再度試験を受けなくてはいけないと話したほか、アメリカの医療制度について「患者自ら主治医（家庭医）を決めることができ、専門性の高い疾患については主治医から専門医を紹介され受診するため、薬や予防医学など総括的に把握できる。しかし、医療費が日本の約五倍から十倍と高額で、利便性が低い」と指摘しました。

一方、日本では、「医療制度が整っているので医療費が安く、好きな病院で受診でき利便性は高いが、なかなか主治医を決めにくく、病院を変えると薬や検査が重複することもあり、医療の標準化が進んでいない」という問題点を挙げました。

参加した四十人は、アメリカと日本の医療の違いに驚きながら、真剣に聞き入っていました。

家庭医とは…一言でいうと、医療のなんでも屋さん。一般的な病気の八〇%をカバー。全ての外来患者（新生児から高齢者）に対処することが可能。

国民年金

その91

国民年金保険料の納付が困難なときは

経済的な理由等で国民年金保険料を納付することが困難な場合には、申請により保険料の納付が免除、猶予になる制度があります。

保険料の免除や猶予を受けずに保険料が未納の場合、不慮の事態により障がいが残ったり、死亡したとき、障害基礎年金や遺族基礎年金が受けられない場合があります。

全額・一部免除制度

免除申請が認められるには、申請者本人のほか、配偶者や世帯主の前年中の所得（申請の時期によっては前々年中の所得）が、国で定めた所得基準の範囲内である必要があります。

免除区分は全額免除と一部免除（3区分）があり、それぞれの免除期間のうち年金に反映される期間は、全額納付したときと比べ次の通りとなります。

免除区分			受け取る年金額
全額免除	4分の3免除	全額納付の2分の1	全額納付の8分の5
一部免除	2分の1免除	全額納付の4分の3	全額納付の8分の7
	4分の1免除	全額納付の8分の7	

※さらに、30歳未満の人には「若年者納付猶予制度」、学生の人には「学生納付特例制度」があります

【申請手続きに必要なもの】

- ① 年金手帳または基礎年金番号のわかるもの
- ② 印鑑
- ③ 他の市（区）町村から転入された人は、前年の所得を証明するもの
- ④ 学生納付特例の申請については、在学証明書または学生証の写し
- ⑤ 失業などを理由にする場合は、「雇用保険受給資格者証」「離職票」



詳しくは

住民課戸籍年金担当へ

022-8128

HELLO 仙美里中学校

3月15日は卒業式。走馬燈のようにめぐる3年間の思い出と明日への希望を胸に、9人の生徒が卒業証書を受け取り、親しんだ学舎をあとにしました。送り出した在校生にとっても、あらためて責任の重さを感じたことでしょう。本校の卒業生はこれで1,994人となりました。



入場前はこの余裕、「ピース！」



一言が心にしみる卒業証書授与



最後の全校合唱。
会場いっぱいに歌声が響きます

教育目標

壮健 文慶 尚學



在校生の贈る言葉も詰まり声に



退場は満面の笑顔でさわやかに



記念撮影

多くの思い出を胸に、未来へ 第六十一回卒業式 大きく羽ばたけ！九つの翼

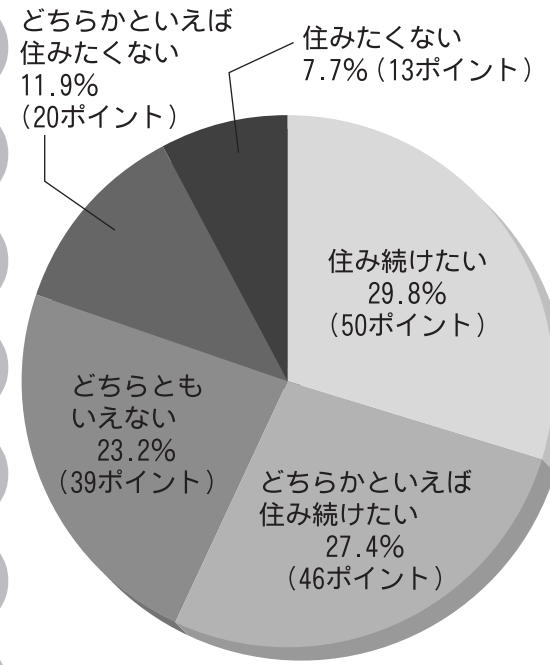
シリーズ 第六次本別町総合計画

Part12

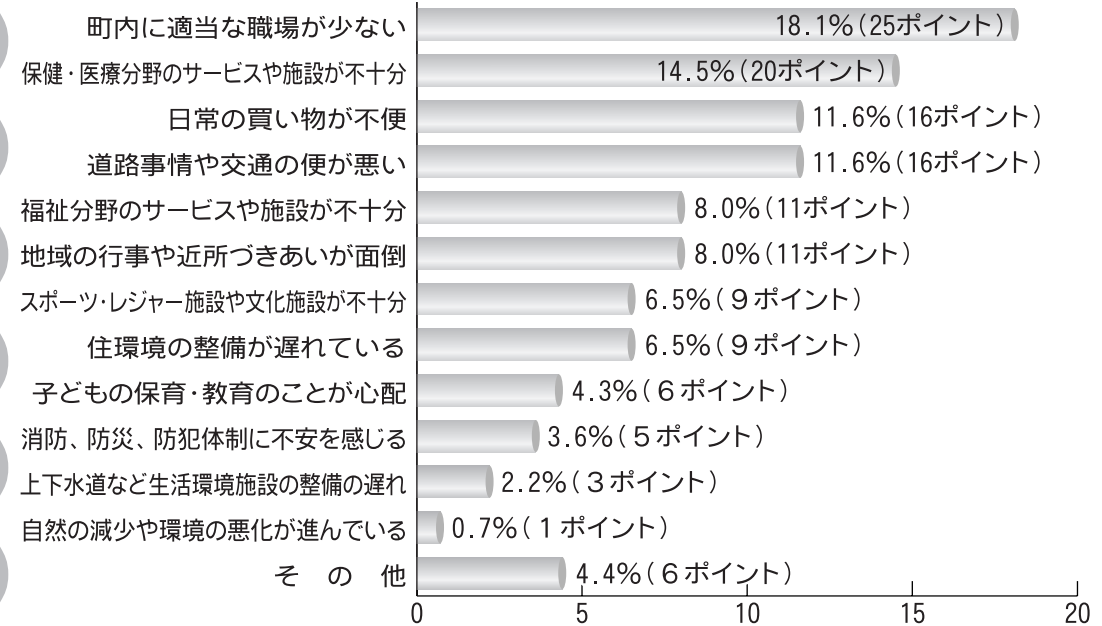
第六次本別町総合計画策定に向けた 町民アンケート結果について

先月号に引き続き、アンケート結果をお知らせいたします。今回は、「本別町に住み続けたいと思いますか」と、それに関連する質問に対しての回答を掲載します。これらのアンケート結果は、平成二十三年度からスタートする第六次本別町総合計画策定の参考資料として活用するとともに、今後のより良い行政サービスを提供する仕組み作りのための基礎資料として有効に活用させていただきます。

Q あなたは、これからも本別町に住み続けたいと思いますか？

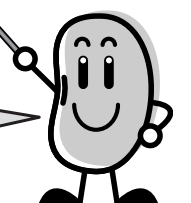


Q 前問で「どちらかといえば住みたくない」「住みたくない」と回答した人にお伺いします。「住みたくない」と思う理由をえらんでください ※複数回答



「あなたは、これからも本別町に住み続けたいと思いますか？」の問いに対し、今回4割を超える人が、「どちらかといえば住みたくない」「住みたくない」と回答。その理由として「町内に適当な職場が少ない」が18.1%と最も多く、次いで「保健・医療分野のサービスや施設が不十分」が14.5%、「日常の買い物が不便」「道路事情や交通の便が悪い」が11.6%となっています。このことから、このまちに住み続けるためには、生きていくための「糧」としての働く場の確保と、高齢化が進む中での保健・医療分野の充実が強く望まれていることがわかります。

総合計画についての問い合わせ
企画振興課 企画・生涯学習担当 ☎22-8121



姉妹都市 オーストラリア ミッチェル訪問団が来町



平成十九年の訪問以来約三年ぶりとなる姉妹都市オーストラリア・ミッチェルの訪問団一行十二人が、五月七日（金）に来町し、十二日（水）までの六日間滞在します。滞在中は、つつじ祭り会場で「ミッチェルの特産品販売コーナー」を設けるほか、町内視察などをして過ごします。街で見かけることができましたら気軽に声を掛けてあげてくださいね。



平成十九年来町時の様子

主な滞在日程

- 5月7日（金）
 - 本別町到着
 - ウエルカムパーティー
- 5月8日（土）
 - ホストファミリーと交流
- 5月9日（日）
 - つつじ祭り参加
- 5月10日（月）
 - 阿寒湖ほか観光
- 5月11日（火）
 - 町内視察・散策
 - 茶道・華道・着物着付け体験
 - さよならパーティー
- 5月12日（水）
 - 本別出発

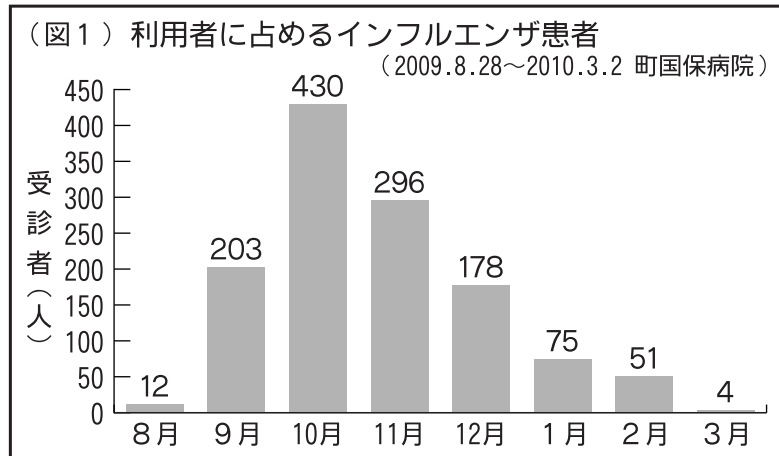
知っておこう

新型インフルエンザ

昨年より世界的大流行を引き起こした新型インフルエンザも、ようやく終息の気配をみせています。今回は、昨年度の町国保病院の熱外来の動向と、町内の新型インフルエンザ予防接種の状況をお知らせします。

町国保病院 熱外来利用者の概要

町国保病院での熱外来の開設日数は八月二十五日から三月三十一日までの二百十九日間。延べ利用者数は千三百一人でした。利用者数の年齢は〇歳から九十七歳までとすべての年代にわたっていましたが、平均年齢は二十二・一歳と若年でした。三月二日までの熱外来利用者のうち三百四十一人（二六％）にインフルエンザの陽性反応が見られ、その特徴として、二十歳以下が八割と若年層が大半を占めており、平均年齢は十六・四五歳となっています。（図一）



予防接種受診者の状況

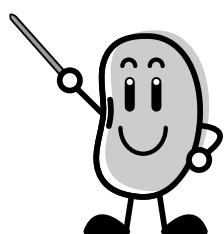
昨年十月から厚生労働省が定めた優先接種対象者の順番に予防接種を行い、三月三十一日までに本別町内で接種を受けた人は表1の通りです。小学生は接種開始時期までにすでに感染した人が多かったこともあり、接種希望者は少人数でした。高齢者については、感染者の多くが若年者であったことや接種開始の時期には流行が沈静化に向かっていたこともあり、あまり多くありませんでした。現在も、これまで接種を受けていない人に対する予防接種の予約を受け付けていますので、健康管理センターにお問合わせください。

(表1)

対象者	人数
救急隊員、医療従事者	118人
基礎疾患を有する者(優先)	263人
基礎疾患を有する者(その他)	84人
妊婦	18人
1歳から就学前の幼児	303人(延べ数)
小学校低学年	58人(延べ数)
1歳未満児等の保護者	32人
小学校高学年	32人(延べ数)
中学生	47人
高校生	23人
高齢者(65歳以上)	217人
1歳未満の者	0人
上記以外の者	50人
合計	1,245人

今後の対応

新型インフルエンザは沈静化している状況ですが、今後第二波の流行も懸念されています。町としては引き続き感染予防対策や医療体制の確保に努めますが、感染の拡大を防ぐには町民のみならず一人ひとりがせきエチケットや手洗い、うがいなどの日ごろの心掛けが重要です。



新型インフルエンザに関するお問い合わせは、本別町健康管理センターへ ☎22-2219



本別町教育功績者を表彰しました 3 13

平成21年度本別町教育功績者表彰式が3月13日に中央公民館で行われ、加藤克則さん（新生）に賞状と記念品が贈呈されました。この賞は、長年PTA役員として活躍され、PTA活動の推進と本町の教育振興に多大な貢献をされた人に贈られるもので、加藤さんは、平成9年度から通算10年間にわたり、仙美里小中学校のPTA役員を担い、平成19年には町のPTA連合会会長も務められ、本町の教育推進に大きな功績を挙げられました。



バスに乗って映画鑑賞会 3 25・26・29

町ふるさと銀河線代替バス振興会議（佐々木哲夫会長）による代替バスを利用した帯広市を往復する日帰り「春休み子ども映画鑑賞会」が、3月25、26、29日の3日間行われました。同鑑賞会は、町内の小学生を対象に同バスの周知と利用促進を図ることを目的に企画されたもので、3日間で33人の小学生が参加し、春休みの楽しい一日を過ごしました。



春休みを図書館で 3 25・26

春休みを図書館で楽しく過ごしてもらおうと「春休み子ども映画会」と「春休み手づくり絵本を作ろう」が3月25日、26日の2日間、図書館で開催されました。25日の映画会では4本のアニメが上映され、幼児から小学6年生の約40人が楽しんだほか、26日の手づくり絵本製作には10人の小学生が参加し、自分の名前が入った折りたたみ絵本作りに取り組みました。



手づくり絵本に取り組む子供たち

親子のためのふれあい音楽会 4 2

家庭支援・教育事業「なかよし」の親子のためのふれあい音楽会が4月2日、健康管理センターで開催されました。本別高校吹奏楽部（戸谷愛部長）13人が、テレビアニメのテーマソングなど全7曲を演奏。童謡アイアイでは、訪れた23組52人の親子と手遊びをするなど、楽しいひとときを過ごしました。演奏後には、高校生と子供たちが一緒に楽器を鳴らしたり、抱っこするなどの触れ合いも行われました。



一足早く春が訪れました 4 12

今年も北海道農業大学校（鞍懸周校長）の生徒が大切に育てたパンジー、ナデシコ、キンギョ草の花36株が4月12日、NPO法人ほんべつつじの園（遠藤一雄代表）に贈られました。これは平成11年から毎年農業大学校の卒業生に対してつじの園から本別町の思い出として手作りのはがきセットをプレゼントしているお礼に贈られているものです。贈呈式では、園生代表の小川智史さんが「きれいなお花をありがとうございます」とお礼を述べ、園生は一足早い春の訪れを味わいました。



通学路が大変きれいになりました 4 15

本別ライオンズクラブ（朝日基光会長）が4月15日、愛のかけ橋歩道の清掃ボランティアを実施しました。これは、新学期がスタートし、子供たちが気持ちよく元気に通学できるように行われたもので、集まった会員20人は、歩道に積もった砂や泥などをほうきやスコップを使って丁寧に取り除きました。



過去最高173人が快走 4 18

第24回ほんべつ公園クロスカントリー大会（本別陸上クラブ主催：我妻勇次会長）が4月18日、本別公園で開催されました。大会には、町内外から過去最高の173人がエントリー。選手たちは、父母らの声援を受けながら、起伏のあるコースを春の風を感じながら駆け抜けました。



キノコ栽培研修会 4 18

本別町林業グループ（篠江孝夫会長）主催のキノコ栽培研修会が4月18日、町ふるさと産業開発センターで行われました。村瀬敏雄十勝総合振興局森林室足寄事務所長から、菌の植え付け方法や、ほだ木の管理方法などの説明を受け、用意されたシイタケの菌をシイタケ栽培に適しているミズナラ350本に穴を開け植菌。参加した25人は、同グループの会員と協力しながら、おいしいシイタケが実るよう、真剣に作業に取り組んでいました。



情報を広報電算担当へお寄せください
011-8121

みんなの健康

309

エーシオン等を行い、日常生活援助を中心に行うことができるサービスです。デイケアは、医師の指示の下に、理学療法士（PT）、作業療法士（OT）、言語聴覚士（ST）による身体機能回復維持のための専門的なりハビリを受けることができるサービスです。

介護保険制度で利用できる在宅サービスの中に、デイサービス（通所介護）、デイケア（通所リハビリテーション）

デイサービスとデイケアの違いについて

入浴や食事、健康チェックを受けることができるサービスです。では、この二つの違いは？というところ、デイサービスは日常動作の訓練やレクリ



激のある生活を送ることができません。また、介護をしている家族にとっても、日中自分の時間をもち、気持ちのフレッシュすることができ、良い機会となります。お体の状態や、目的に合った利用ができるよう、まずはケアマネジャーにご相談ください。

本別町総合ケアセンター
介護福祉士 舛館 紀子

未来に輝く子どもたち

本別町の未来を担うかわいい星たちです。
お父さん、お母さんのたのびさんの愛を包まれて、すくすくと育つね！

北糖
宮脇 愛莉
(理枝ママ)



※写真は本人に了解を得た上で掲載しています

無災害を願って

4/20

春の全道火災予防運動（4月20日から30日）初日の4月20日、防火啓発パレードが町内で実施されました。高橋正夫町長の「町民の生命や財産を守るよう、予防に努めてください」とあいさつの後、消防署車庫前から消防車や町危険物安全協会の車両12台が出発し、火災予防を呼び掛けました。



銀河ホップアップ

足寄町

第29回 足寄ふるさと花まつり

シバクラヤツツシを眺めながら、家族や友人と焼肉を食べて楽しいひとときを過ごしませんか。皆さんのお越しをお待ちしています。

日時 5月30日(日)
午前10時～

場所 足寄町里見が丘公園フラワー園
内容 町民ステージショー、カマス挙
げ大会、抽選会、炭の無料配布など
詳細 足寄町役場経済課林業商工観光室
☎2512141
内線253



陸別町

オフロードバトル ラリー北海道

陸別サーキットに春を告げるオフロードシーズンがやってきました。今月はオフロードバトルとラリー北海道が開催されます。ぜひ会場へお越しください。

◇オフロードバトル
とき 5月16日(日)
スタート午前9時～

◇ラリー北海道
とき 5月22日(土)
スタート午前9時20分
午後0時30分
陸別サーキット（陸別町ウエンベツ）
◇ところ 陸別サーキット
◇入場料 大人 1200円
高校生以下 無料
◇問合せ先 陸別町役場産業振興課内
陸別町字陸別東1条3丁目
☎2712141 FAX 2712798

ご寄付ありがとうございます

- 平成22年2月18日から4月12日
次の通りご寄付をいただきました。紙上をかりて厚くお礼申し上げます。(敬称略)
- ★本別町国民健康保険病院医療施設等整備基金指定
金50,000円 向陽町 野崎 弘子
 - ★本別町老人ホーム物品購入費指定
金50,000円 向陽町 野崎 弘子
 - ★本別町老人ホーム指定
トイレットペーパー40ロール
…… JA十勝地区女性協議会 会長 河田 さえ子
ボックスティッシュ 100箱
…… なかよしカラオケ同好会 代長 小松 直嗣
 - タオル 100本 …… 北7丁目 森岡 名
 - タオル 100本 …… 匿 名
 - タオル 50本 …… 匿 名
 - タオル 20本 …… 匿 名
 - タオル 30本 …… 匿 名
 - タオル 18本 …… 匿 名
 - タオル 40本 …… 匿 名
 - タオル 13本 …… 匿 名

- タオル 50本 …… 匿 名
- タオル 32本 …… 匿 名
- ★新入学児童用
連絡用ファスナーファイル72枚… 帯広建設業協会
こうつうあんぜんあいうえおひょう80枚
…… 本別町交通安全協会 会長 前田 進
- 交通安全愛のスズ73個
…… 本別町商工会女性部 部長 小川 睦子
- ※子どもたちが交通事故に遭わないようにと願いを込め、昭和52年から毎年スズが寄付され、これまで約4,800人の新入学児童に贈られています

- 個性あるふるさとづくり寄付条例による寄付
- ★日本一の豆を生かした農産物加工体験施設整備事業
金50,000円 …… 匿 名
金100,000円 …… 匿 名
 - 〈内訳〉
 - ★福祉でまちづくり推進事業 …… 金20,000円
 - ★日本一の豆を生かした農産物加工体験施設整備事業 金20,000円
 - ★自然との共存・環境保全推進事業 金20,000円
 - ★資料館特別展「わが町の七月十五日展」開催事業 金20,000円
 - ★本のまち・夢プラン事業 …… 金20,000円

数字で見る 図書館のすがた

平成21年度利用統計から

図書館では、毎日の貸出・返却冊数、利用人数、予約件数などさまざまな統計をとり、どのように利用されているかを調べています。

お誕生

3月後半から
4月前半の
届出分

島田 莉奈^{りな} 直樹^{なほ} 3/19 緑町
笠原 愛里^{あいり} 鎮^{ちん} 3/23 上押帯
今野 吟^{おとや} 雅徳^{みやとく} 4/2 負籠2
吉田 修胤^{おとつぐ} 将人^{まさひと} 4/3 北8丁目
廣瀬 怜愛^{れんあい} 雄一^{ゆういち} 4/5 錦町

ご結婚

(加藤 剛^{たかたけ たけし} 勇足^{ゆうそく} 西5
五十嵐 杏^{いご けい} 奈^な 芽室^{めむろ} 町
(三崎 宏^{みやま ひろし} 史^し チエトイ2
阿部 さおり^{あべ さおり} 帯広市
(西原 隆^{にしはら たかひろ} 広^{ひろ} 向陽^{きやうやう} 町
(前田 みゆき^{まえだ みゆき} 向陽^{きやうやう} 町
(山口 俊哉^{やまぐち しゅんざい} 緑町
(山田 里美^{やまだ りみ} 深川市
(岡崎 慶太^{おかざき けいた} 南1丁目
(菊池 智江^{きく池 ともえ} 室蘭市

おくやみ

宮崎 留吉^{みやざき りゅうきち} 97歳 3/18 北5丁目
野崎 ミツエ^{のざき みつえ} 96歳 3/18 向陽町
沢口 久^{さわぐち ひさ} 71歳 3/21 拓農
吉川 眞池子^{よしかわ まこと} 60歳 3/28 北8丁目
林 一義^{はやし ひとよし} 86歳 3/31 栄町
門脇 ケイ^{かどわき けい} 89歳 4/5 錦町
友高 ヒサコ^{ともたか ひさこ} 86歳 4/10 北7丁目
千葉 久子^{ちば ひさこ} 96歳 4/10 柏木町
小林 ヲキ子^{こばやし おきこ} 85歳 4/12 北4丁目

わたしたちのまち

前月比

人口 8,397人(-156)

男 4,105人(-107)

女 4,292人(-49)

世帯数 3,851戸(-88)

〔3月末日住民基本台帳〕

Q1. 図書館には何冊の本がある？
A. 62,739冊あります。いちばん多いのは文学書で約3割、次に児童書、絵本となっています。CDやDVDなど視聴覚資料もありますよ。

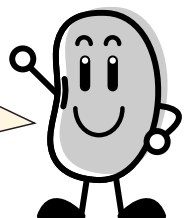
Q2. 1年間、本別町の人は何冊読んだ？
A. 合計42,798冊。(昨年度から1,186冊増えました!) 町民1人あたり5.1冊読んだ計算になります。

Q3. いちばん図書館を利用したのはどんな人？
A. 年齢と性別
でみると、30代女性がいちばん多く5,347冊、つづいて40代女性(4,565冊)、50代女性(4,533冊)となっています。全体では男性と女性の割合は1:2。男性では60代(1,654冊)がトップです。

Q4. いちばん混むのは何曜日？
A. 火曜日(2,765人)です。金曜日(2,699人)、木曜日(2,519人)と続き、休館日後の火曜日は特に利用が多くなっています。



本別町の皆さん、今年度も図書館でたくさんのお本と出会ってくださいね



お問い合わせ先

本別町図書館

(愛称:ぶつくる一丸)

本別町北2丁目 ☎・FAX 22-5112